
お兄ちゃんが高校生になって戻ってきた！？

ナス

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お兄ちゃんが高校生になつて戻つてきた！？

【Zコード】

Z9570Z

【作者名】

ナス

【あらすじ】

お兄ちゃんが高校生になつて戻つてきた！？

全寮制の精練学園に通う女子高生、桜は、とある日、校長室に呼び出され、極秘事項としてある転校生を紹介される。なんと、それは10年前他界したはずの8つ年の離れた兄であった！－しかも、記憶喪失をおこしている。

困惑しつつも、兄と生活を送り、学園に隠された謎や兄の過去を知つていく。。。

俺の名前は西蓮寺 義人。^{よじと}我ながら他人のような名前だ。

どうしてかつて？簡単だ。俺には記憶がない。気づいたら、ベッドの上に横たわっていた。そばに女の人がいた。その人が俺のすべてを教えてくれた。すべてといつても、名前、年齢が16歳、この学園に通うということくらいだ。この学園とは、精練学院。その女人は校長先生をしてるらしい。そんなこんなで、今おれは校長室にいる。

トントン。

「失礼します」

誰だろう。胸の紋章、学生服からして在校生だろうか。

「お呼びでしょうか、校長先生」

見た感じ、身長は150CM、ショートヘアで小柄な体系だ。けっここうタイプかもしだいと思つてしまつた。

「おお、来たか西蓮寺。」

西蓮寺？奇遇だ。俺と同じ。

「すまないな、授業中に呼び出してしまつて。実はお前に伝えたいことがある。時間がないから率直に言わせてもらひが、そこにいるヤツはお前の兄だ。」

「え！？」

お互におもわず口に出してしまつた。どういうことだ。俺には妹もいたのか。いや、驚く必要はないか。もう記憶喪失という時点で、おこることすべてが驚きだらう。だが、おかしい。どうして俺の“妹”にあたるヤツも驚いているんだ？

「校長先生、冗談はよしてください。私の兄は10年前に他界したんですよ？しかも、歳は8つ離れていたんです。生きていたとしても高校生のはずありません。」

「ああ、そうだったな。だが、お前の前にいるのは紛れもなく、お

前の兄だ。実はこれは極秘事項でな、いいたいことがあるかもしかんがこれ以上の追及はなしだ。」

校長先生は淡々と言つた。

「いや、でも、そんな急に言われて」「わかつてゐる。だが、立場上しかたないのだ。わかつてくれ。では本題に入るが、お前の兄、西蓮寺 義人は本日をもつて、この精練学園に入学する。クラスはお前と同じ、1年2組だ。そして、桜、お前の役目は義人とともに学園で生活をすること。ちなみに、そいつは記憶をなくしている。以上だ。桜、お前は授業に戻れ。義人は次の時間から転校生の紹介として入る。」バタン。

ドアが閉まる。

廊下を歩きながら桜は困惑していた。死んだはずのお兄ちゃんが同じ年で、しかも記憶喪失になつて戻ってきた。しかし、よく考えてみると、お兄ちゃんの葬式に行つたわけでもない。ただ死んだという連絡だけだつた。そういう考えているうちに、桜は教室についていた。ガラガラ。教室のドアを開く。ちょうど授業が終わつたみたいだ。席に着いた途端、クラスメイトの明日香が興味津々で話しかけてきた。

「ねえ！どんな話だつたの？」

これは、言つていいことなのだろうか？『極秘事項だ』たしかそんなこと言つてたような。。。

「ごめん、話せないの。」

「え～教えてよ、ね？ね？ちょっとだけだから～」

そうこうしているうちに、予鈴が鳴つた。

ガラガラ。

「は～い、みなさん席についてください」

担任の音無先生だ。歩くたびに溢れんばかりの豊満なバストがゆれる。

うらやましい。

自分の胸をみてはいつも桜は素直にそう思つのであつた。

「は～い席に着きましたね～。今日は～皆さんにサプライズがあります。転校生の紹介で～す」

音無先生が相変わらずのスローペースではなすと、教室中がざわめいた。

「転校生だつて！」

「どんなやつだろ～」

「男か女か！？」

教室中いろいろな声が飛び交う。

「ねえ！どんな人だろ～ね！」

明日香が興奮した様子で、話しかける。

「え！？あ、うん。どんなひとだろ～ね、ははは。。」

ゴメン、明日香。もう知ってるんだと内心思つのであつた。

「は～い。みなさん静かに～。それでは、転校生くんどうぞ入ってください」

ガラガラ。教室の視線がドアに集まる。男と分かつた瞬間、あるひとは落胆し、ある人は有頂天になつた。

「では～教壇にたつて自己紹介をお願いしま～す。」

ドキドキ。なんか無駄に緊張するな。名前を書くためにチョークを取りながら、義人はそう思つた。カキカキ。

「西蓮寺 義人です。親の都合で、引っ越ししてきました。よろしくお願いします。」

本当は親なんているかわかんなんけど、とりあえず校長先生に言われた通りのあいさつをした。

「は～い、西蓮寺 義人くん～今日からよろしくお願ひします。席は～桜さんの後ろに席をもつていってくれるかしら～。」

「あ、はい、わかりました。」

「けつこうかっこいいかも！」

「私の時間話しかけてみようかしら」

「え！？まさか抜け駆け？そんなのだめだよ～」

「ウホ！いい男。」

なんか、女子の声のなかに変なのがいたような。。。いや気にしないでおこづ。

自己紹介もそこそこに授業が始まった。

キーンコーンカーンコーン

予鈴とともに、俺の席の周りに人が集まつてき、女子からの質問の嵐かと思つたが

しかし、次の時間が体育だつたためか、うけずにするだ。

男子で俺に質問してくるのはおらず、逆に女子の反応からか、嫉妬の視線をズキズキ感じる。

「義人？でよかつたよな。」

着替えているフレンドリーそうなやつが話しかけてきた。

「俺の名前は羽山ヒタチ通よろしくな。」

けつこうキャラそうにみえたが、とりあえず友達をつくるのはメリットがおおきいだらう。

「ああ、よろしくな。」

そう言いながら制服を脱いだが、なんか妙にまわりの視線が俺の体に集まつている。確かにシャツはきてない、というよりなかつただけだが、そんなに珍しいだらうか？

「おい、お前、すごい体してんな？鍛えてんのか？それにすごい傷だらけだし。」

通が驚きながら話しかけてきた。あ？なに言つてんだ。とおもつていたが自分の体を見ると納得できた。

体中傷だらけで、まるでかの格闘漫画ババを思わせるような肉体。

「え！ああ、う、うん鍛えてるんだ。趣味でね。あははは。」

つてなんであれババなんて知つてんだ？

「そ、そ、うか。いや、制服の上からじやわからないもんだな。」

通は驚きつつもそういうふうに言った。俺つていつたい何してたんだよ。。。

そう思いながら体育のため、グラウンドへ向かった。

精練学園へ（後書き）

初の連載小説に挑んでみました。

始めてなので、誤字、脱字、文保的ミスなどいろいろあると思いま
すが、どうか、暖かく見守ってください（笑）

主人公の視点は義人中心ですが、できれば桜も並行していきたいと
思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9570z/>

お兄ちゃんが高校生になって戻ってきた！？

2011年12月29日22時50分発行